

ギター用2CHプリアンプ Widowmaker 55W×2 ギター用パワーアンプ Velocity 100 LTD

ロックトロンの新製品でプリアンプを再考 ギター・サウンドはアンプで作れ!



昨今はコンパクト・エフェクターをメインにしたサウンド・システムが一般的になっているが、そんな中、あのロックトロンからラックタイプのギター用2CHプリアンプ「Widowmaker」と、往年の名機であるパワーアンプ、Velocity 100の後継機「Velocity 100 LTD」が発売された。このタイミングでラックタイプのプリアンプとパワーアンプを出すからには、かなりの自信作であるのは間違いないだろう。今回の2機種には著名なアンプデザイナーであるFrank Lamara氏が携わっている。Frank Lamara氏といえば、あのBruce Egnater氏と共に一時代を築いたアンプ界の巨匠の1人である。1980年代後半からプロ・ギタリストの背中には巨大なラックが並んだものだが、彼が携わったアンプも数多く見かけられたであろうことは容易に想像できる。そんな彼がロックトロンに加わったということは、さらに期待が膨らむところである。(文/写真:鈴木健治)

どこまでが自分の音?

最近のコンパクト・エフェクターのクオリティーの高さには目を見張るものがある。しかし、よく考えてみよう。ギターやベースはエフェクターだけでは音が出せず、アンプが必要なのは明確である。たとえ最高のエフェクトボードを組むことができても、アンプがイマイチでは本来の力を発揮することができないのだ。また、リハーサル・スタジオやライブハウスに常設されているアンプが、いつも最高のコンディションとは限らない。筆者のようなスタジオ・レコーディングやライブ・サポートの仕事を中心にしている人間からすると、自分のアンプが使えない、もしくは同じ機種がレンタルできないことは仕事をやる上でかなりのリスクを抱えることになるほか、余計な心配をしなければいけないのだ。

本来、ミュージシャンは可能な限り「演奏」に神経を注ぐべきであるのは当然のこと。機材面で不安を抱いたまま演奏に臨むのは間違いである。また、プロが使うレコーディング・スタジオにはギター・アンプなどが常設されていないのが一般的だ。老舗のリハーサル・スタジオ...例えば、芝浦スタジオなどは機材を持ち込む前はただ広い部屋である。先程も述べたが、立派なエフェクトボードもギター・アンプが良くなければ、性能を存分に活かすことができないのだ。そうすると自前のアンプが必要になるわけで、最低でもPAに送る手前まではプレイヤーの責任範囲であると言えるだろう。ちなみに、筆者はPAからの出音までチェックしている。理由は簡単で、客席で聴くのはPAを通った音だからであり、そこまで気にするのは何らかしかなことではないのだ。

プリアンプ+パワーアンプ = アンプヘッド

「お気に入りのアンプヘッドとキャビネットを自分のライブで使いたいけれど、電車ではとても運べない...」「機材を運ぶ車が欲しいけれど、なかなか重い腰が上がらない...」。こんなことを感じている方は少なくないだろう。アンプヘッドとキャビネットを持ち運べないのであれば、せめてプリアンプまでは自分で持ち歩くようにしたいところ。それをスタジオやライブハウスにあるアンプのエフェクトリターンがパワーアンプインにつなげれば、いつもの音にだいぶ近付けることができるだろう。もう少し頑張ってパワーアンプまで持ち込めれば、さらに良いのは言うまでもない。今回紹介するロックトロンのプリアンプとパワーアンプの重量は、2台でおよそ6kg程度。決して運べない重さではないだろう。



写真1 Widowmakerのクリーンチャンネル。とても効きが良い

2CHプリアンプ、Widowmaker

まずは2CHプリアンプの「Widowmaker」からチェックしてみよう。

本機は、ハイゲインとクリーンの2チャンネル仕様になっており、コントロールは各チャンネル共に完全に独立している。ハイゲインチャンネルはLevel、Bass、Mid、Treble、Gainの5コントロール。クリーンチャンネルはLevel、Bass、Mid、Trebleの4コントロールになっており、各チャンネル共に必要なコントロールはしっかりと押さえている。特筆すべき点は、すべてのコントロールの効きが非常に良く、かなり幅広いトーンコントロールが可能である、ということだろう。なお、オプションのフットスイッチを使用してのチャンネル切り替えもできるようになっている。



写真2 Widowmakerの背面にはフットスイッチ端子を搭載

効きの良いトーンコントロール

その名の通り、ハイゲインチャンネルはGainを上げればどこまでも猛烈に歪む、強力なチャンネル。この歪みはかなりのインパクトがある。とはいえ、ゲインの幅はかなり広いので、クランチ程度の歪みも出すことが可能だ。また、トーンコントロールが強力に効くので、ブルーザーなクランチからヘヴィメタル仕様の超ハイゲインなサウンドまで、その守備範囲はかなり広いと言えるだろう。

一方、クリーンチャンネルはハイゲインとは打って変わって、歪みを排除した、とても素直なクリーントーンが出力される。このクセのないトーンは、例えば、お気に入りのドライブペダルなどにつないでの音作りにも相性が良いと言えるだろう。また、ハイゲインチャンネルと同じく、トーンコントロールが強力に効くのも特筆すべき点である。

幅広い用途に使える

とにかく各チャンネル共にトーンコントロールできる範囲が広いので、クリーンチャンネルでは極めて素直なクリーンから、少くくせを付けたファンキーなクリーン、マイルドなジャズトーンが、ドライブチャンネルではコード弾きに見えるクランチからヘヴィメタルなどの音楽に適した強力なドライブトーンまで得られる。また、ドライブサウンドと言っても、ミドルレンジにハリのある王道的な歪みトーンからミドルをカットした極悪スラッシュメタル・サウンドのような歪み、叫ぶようなリードトーン...というように幅が広く、ブースターなどを使わずに本機だけで対応できるのも頼もしいところである。

55Wx2 パワーアンプ、Velocity 100 LTD

続いて、Velocity 100 LTD ステレオパワーアンプをチェックしてみよう。

本機的设计にもアンプデザイナーのFrank Lamara氏が携わっている。そのサウンドは良い意味で、とても素直だ。プリアンプで作ったサウンドを素直に増幅・アウトプットしてくれる印象で、パワーアンプとしての本来の目的をしっかりと果たしてくれる。もちろんギター用のパワーアンプなので、ピュアオーディオのそれとは異なるサウンドではあるが、それでも豊かなワイドレンジ感が得られる。

本機は2CH仕様で、1つのチャンネルは55W@4 の大出力。モノラルで使用する場合はCH1に入力した信号をCH1とCH2の両方から出力することができる。この場合、CH1のコントロールでCH1とCH2の両方を調整可能だ。一方、ステレオで使用する場合はそのまま、それぞれのチャンネルを調整する。保護回路も搭載しており、ツアーなどで使用する場合もトラブルを最小限に抑えることができる。

プリアンプとパワーアンプを分ける意味

通常の「アンプヘッド」はプリアンプとパワーアンプを1つにまとめたもの、と考えて良いのだが、プリアンプのWidowmakerとパワーアンプのVelocity 100 LTDをセパレートに分ける利点は数多くある。例えば、お気に入りのアンプヘッドがある場合、プリアンプであるWidowmakerのアウトプットをアンプヘッドのエフェクト・リターンにつなぐことで、キャラクターの異なるアンプトーンを加えることができるのだ。スイッチャーなどを使えば、エフェクターを踏み変える要領でプリアンプのセレクトが行えるので、アンプをもう1台加えたような使い方ができる。ライブなどでアンプを切り替えて使い分けられるのは驚沢なことであり、アンプでの音作りが好きな人には有効な使い方の1つと言える。

また、お気に入りのプリアンプがある場合でも、パワーアンプのVelocity 100 LTDは頼もしい味方になってくれる。Velocity 100 LTDはステレオでアウトプットできるので、空間系やモジュレーション系エフェクトのステレオアウトを生かした、広がりのあるサウンドを作ることが可能。モノラルとは異なる、広がりのあるステレオシステムは、一度体感してみる価値があるだろう。

パワーアンプでの音作り

Velocity 100 LTDは素直な音が出るパワーアンプであると同時に、RESONANCEとPRESENCEという強力なトーンコントロールが装備されている点が特徴と言える。音を出してみるまでは、パワーアンプの補正くらいの役割なのだろう...と思っていたのだが、実際はパワーアンプでの音作りの「要」と言っても過言ではない、強力な効き方をしてくれる。RESONANCEは今までのREACTANCE回路をさらに進化させたコントローラーで、低域の迫力をコントロールすることが可能。ヘヴィメタル/ラウド系のハコ鳴りには不可欠な、迫力のある低域を強力にプッシュしてくれる。

一方、PRESENCEでは高域のコントロールができるわけだが、プリアンプにもう1つトレブルが足されたかのような強力な効き方が特徴と言える。轟音の中でも突き刺さるような高域を得ることができるので、音の抜けが抜群に良い、まさに叫ぶような高域をアウトプットすることが可能だ。

ラックならではの安心感

今回の2機種は1Uのラックタイプなので、ライブやリハーサルなどで使用する際も気軽に持ち運べると言えるだろう。また、音作りの幅も広いので、今あるシステムに別のキャラクターを加える...といった使い方も考えられる。コンパクト・エフェクターやデジタル・マルチ・エフェクターとは一味違った、ラックならではのサウンドをぜひ、体感してほしい。



写真3 Velocity 100 LTDのコントロール端子。トーンが強力



写真4 Velocity 100 LTDの背面端子。2チャンネルの出力が可能

ROCKTRON Widowmaker ギター用2CHプリアンプ

価格: 48,000円 + 税



端子: INPUT, OUTPUT, POWER, FOOTSWITCH(CH 切替用、フットスイッチは別売) 寸法: 483W x 44H x 102Dmm 重量: 1.7kg

ROCKTRON Velocity 100 LTD 55W×2、ギター用パワーアンプ

価格: 65,000円 + 税



出力: 55W@4 x2, 40W@8 x2, 28W@16 x2 寸法: 483W x 44H x 190Dmm 重量: 4.53 kg